

令和6年度

大野町教育委員会点検評価報告書

大野町教育委員会



## 令和6年度 大野町教育委員会点検評価シート

### ○教育委員会の活動状況について

点検項目	実 施	成 果○ と 課 題●	評価
教育委員会会議の実施状況	開催回数： 定例会議 12回 臨時会議 0回 審議件数： 議案 54件 内可決 54件 総合教育会議 3回	○いじめ・不登校など、学校の様子について報告し、自分自身で問題解決をできる力を育ててほしいなど、委員会で出された意見を校長会や教頭会を通して学校に伝えて学校運営に生かした。 ○教育委員会の事業後援について、営利目的の団体であるかなど、主催団体の状況を把握し、後援の可否を慎重に審議した。 ○総合教育会議では、教育振興基本計画の検討を行い、5ヶ年計画の1年目として、大野町の教育の見直しを図ることができた。	A
調査活動の状況等	・町教委訪問（全小中学校） 1月27日、28日、29日 (3日間) ・町研報告会 大野小・中小11月21日	<b>【昨年度課題】</b> <u>学校規模が縮小する中で、今後も2校発表が適切なのか検討。</u> →○児童生徒の数は減少してきているが、それぞれの実態に合わせて、目指す教育を具現しようと努力している。互いに学び合う機会として、令和13年度の学校統合まで、2校の発表は維持していきたい。 ○1月末の町教委訪問となり、1年間の指導の成果を評価することができた。 ●町教委訪問での指導を学校経営に活かすには、1月実施では十分な期間があるとはいえなかった。 ○11月の発表に向けて継続した取組を行い、その成果を町研で示すことができた。発表校のよさから学び合うことができた。	A
学校規模適正化について	・町小中学校のあり方内部検討委員会（2回実施） ・町小中学校のあり方外部検討委員会（11月13日、2月21日、3月24日）	<b>【昨年度課題】</b> <u>小中学生の親世代や現在の学生世代など、若年層に対してのアプローチ方法の検討。</u> →○検討内容の説明動画をオンデマンド配信し、オンラインで意見聴取を実施し	A

		<p>た。回答フォームは、動画の配信画面をはじめ、町HP、「広報おおの」等の各種媒体に掲載し、回答を呼びかけた。その結果、1,064回の動画再生と129件の回答を得ることができ、回答の半数以上が乳幼児及び小中学生の保護者であった。</p> <p>○外部検討委員会を中心に議論を進めた結果を答申にまとめ、「望ましい学校教育を将来にわたって実現するためには、小学校1校、中学校1校に学校再編することが最適である」など、4つの提言を示すことができた。</p>	
--	--	--	--

○事務事業の執行状況について(大野町の教育の方針と重点の評価)

家庭教育

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
家庭教育機能の向上	◇家族ぐるみのしつけや心豊かな子どもの育成に資する各種研修や活動の充実	<p><u>【昨年度課題】研修会等以外でも、親子が活動しやすいような工夫。</u></p> <p>→○PTAと連携し、夏休みの宿題として「親子でクッキング」を行うようにするなど、各家庭の状況に合わせて親子で活動しやすいように工夫した。</p> <p><u>【昨年度課題】保護者の負担軽減や活動の開催時間の工夫。</u></p> <p>→○町の家庭教育学級の研修会について、午前の方が参加しやすいという意見があり、午後から午前へと変更した。</p> <p>○PTAの役員について、家庭教育については慣習として1年生の保護者が行うとしていたものを取り払い、どの学年の保護者でも担当できるようにした学校もある。</p> <p>○メディアリテラシーに関する取組を全校で行うなど、日常的に親子が関わる時間をもてるように工夫している。</p>	B
地域の教育力	◇地域における多様な子育て支	○資源回収や公民館活動など、従前より行	B

の向上	援体制の充実	われてきた活動を見直しながら、必要に応じて実施することができた。	
放課後対策の総合的な推進	◇全学年の児童を対象にした事業の継続 ◇多様な体験・活動の推進	【昨年度課題】指導員と保護者や指導員同士がスムーズに連携するための取り組み。指導員の資質向上と更なる人員確保 →○放課後クラブの運営を外部委託にする準備を整え、運営の効率化や指導員の質の向上が図りやすくする準備をした。 ○指導員を集めて研修会を行い、資質向上が図られた。 ○放課後クラブの環境を整えるとともに、児童の安全確保にも目を向け、指導員の安全講習や資格取得の働きかけを行い、クラブの質の向上が図られた。	B
要保護児童等への支援	◇要保護児童の家庭に対するサポートプランの作成や相談のネットワーク構築などの体制強化 ◇DV（ドメスティック・バイオレンス）、幼児虐待等に関する相談体制の充実と関係機関の連携強化	【昨年度課題】急な虐待対応のための体制整備。 →○産休に入る職員を見越した人員配置を行い、課内で体制を整備することでスムーズな対応に繋がった。 ○学校と関係機関で定期的なケース会議を実施したことで、役割を明確にして相談対応することができた。 ●子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化として「大野町こども家庭センター」を設置し、相談機能の強化を図る。	A

## 幼児教育

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
幼児教育の充実	◇年齢に応じた教育、保育カリキュラムの作成 ◇発達段階に応じた幼児教育の充実	【昨年度課題】研修内容のフィードバックやアイデアの伝え合いによる保育の資質向上。 →○研修を受けた職員が、その内容について職員会で情報提供する時間を作ったり、研修の記録や資料を回覧したりすることで、研修内容の共有ができるようにした。	A

		<p>○発達状況やそれぞれのクラスに応じた保育をおこなっていくために、月に一度クラス会議を行うことができた。クラス会議では、担任だけでなく園長や主任も参加し、今のクラスの課題について話し合い、どうすると子ども達が楽しく保育できるか、どんな願いをもってどんな方法で保育をしていくといいかなど、具体的な意見を出し合うことで、より保育内容を深めていくことができた。</p> <p>●共主体保育（子どもと大人の主体性がバランス良く共存し、共に学び合う関係を重視する保育）の実現を目指し、保育を改善しようと日々努めてきているが、まだまだ全職員が共通理解のもと保育を行うことができていない。引き続き、共主体保育について学びあっていくことが必要である。</p>	
<p>幼・こ・小の 連携強化</p>	<p>◇異年齢児交流の充実 ◇職員相互の交流推進、連携強化</p>	<p><b>【昨年度課題】</b> 小学校へのスムーズな接続に向けた更なる交流の機会。</p> <p>→○小学校へのスムーズな接続に向けて、入学を控えた年長児の学校訪問を11月と3月に実施した。中休み（2時間目と3時間目の間の休み時間）に訪問させてもらうことで、小学校の子ども達と一緒に遊んだり、中休みの後には校内探検をさせていただき、教室や家庭科室など様々な部屋で勉強する児童の姿を見ることができた。園児達からも実際にお兄さんやお姉さん達が教室で学ぶ姿を見ることで、「（学校）楽しそう」「また行きたい」などの声を聞くことができた。</p> <p>○大野町保育研究会で、これまでは町内こども園を対象に研修会を開催してきたが、7月に町内こども園と小学校との合同研修会を開催し、インクルーシブ教育・保育について共に学びを深めること</p>	<p><b>A</b></p>

		ができた。	
子育て支援事業の充実	<p>◇保護者のニーズを反映した子ども・子育て支援事業計画に基づいた事業の推進</p> <p>◇子どもを産み育てることに対する不安や悩みを軽減するための子育て支援事業の充実</p> <p>◇子育て親子と一緒に遊べる場の提供による親子交流の推進</p>	<p>【昨年度課題】安心して子どもを預けられるようファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動）の周知啓発。</p> <p>→○子育て世帯応援のため、10月から新たにファミリー・サポートの「お試し体験補助事業」を開始し、年度末までに10件の利用があった。この補助事業の導入により事業への関心が高まり、利用件数も対前年比約3倍の64件と、大幅な増加に繋がった。</p> <p>○子育て支援施設において、入館料の徴収再開（町外の20歳以上のみ100円）により、年間利用者は対前年比約25%減の25,546名の利用に留まったが、一時的な滞在による町外の利用者が減ったもので、町内の利用者数は少子化が進む中でも延べ3,000名を超える一定数の利用があった。また、誕生会や親子教室の他、新たに夏休み親子クッキングや「液体ミルク」を活用した防災セミナーを開催し、子育て支援事業の充実を図った。</p> <p>○里親サロン等に参加し、里親と交流することで子育て短期支援事業（ショートステイ）の担い手となるよう面談・家庭訪問することができた。</p> <p>○昨年度実施したニーズ調査に基づき、第3期子ども・子育て支援事業計画を内包し、各課での施策を記載した大野町こども計画（計画期間：令和7年度～令和11年度）を策定した。</p> <p>●大野町こども計画の適切な進行を管理するため、施策の実施状況について点検・評価を実施する。</p>	A
療育に必要な児童等への支援	<p>◇療育に必要な児童等への支援の充実を図るための関係機関との連携強化</p>	<p>【昨年度課題】なないろ退所後も切れ目なく親子に寄り添っていけるような支援。</p> <p>→○進学先へのスムーズな支援の引き継ぎ</p>	A

	◇幼児療育センター「なないろ」の支援スタッフの資質向上	<p>のため、なないろでの指導見学の受け入れや1年生の担任との懇談を行うことができた。また、指導方法研究会を開催し、関係機関との意見交換を行うことができた。</p> <p>○国の法改正により、個別支援計画の様式を見直し、保護者へ支援内容やこどもの発達状況を分かりやすく示すことで療育の理解を促した。</p> <p>●理学療法士や作業療法士など、専門的視点を指導に取り入れ、更なる指導力向上と保護者支援に努める。</p>	
--	-----------------------------	---	--

### 学校教育

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
学校経営	<p>教職員・保護者・地域が一体となった安全・安心で活力のある学校づくり</p> <p>◇管理職の確固たる理念とリーダーシップのもと、教職員一人一人が崇高なる使命感と高い倫理観をもって指導にあたることのできるよう、全教職員を活かす、機能的で活力ある運営組織を確立する。</p>	<p><b>【昨年度課題】</b> <u>時間外勤務の扱いやメンタルヘルスチェックシートを通した教職員と管理職とのやり取りで、数値だけではなく、言葉によるコミュニケーションを大切にするような継続的な取り組み。</u></p> <p>→○メンタルヘルスチェックシートで、1や2の低い自己評価をしている職員とは管理職が面談を行うようにして、継続的に取り組んでいる。</p> <p>→○日常的に職員の様子に気を配り、初任者や直採講師が相談しやすい環境を整えるなどの支援を行うよう、校長会などで周知した。</p> <p><b>【昨年度課題】</b> <u>教職員の生活スタイルに合わせた働き方を尊重しつつ、勤務時間や業務量の振り分けを管理する効率的な方法。</u></p> <p>→○業務量の振り分けについては、校長の判断で実施し、改善が見られた学校があった。</p> <p>→●効率的な方法は共有できておらず、各校の状況に応じた対応にとどまっている。</p>	A

		○不祥事根絶に向けた職員研修や、いじめ防止チェックシートに確実に取り組み、職員一人一人の意識を高く維持するよう努めた。	
研修	<p>自己の課題を明確にした主体的な研修による確かな指導力の向上</p> <p>◇経験年数や職務に応じて、学習指導の力、生徒指導の力及び経営・分掌を推進する力を高める研修を行う。</p>	<p><b>【昨年度課題】</b>各校で効果があったタブレット端末の活用方法を習得するための研修。</p> <p>→○大野町教育会には情報部会があり、各校の現状について交流することができている。</p> <p>→●アプリの利用状況は、学校によって差がある。中部事務機のICT支援員による研修を企画するよう助言していく。</p> <p><b>【昨年度課題】</b>学習者（児童生徒）用デジタル教科書の効果的な活用。</p> <p>→○本年度は、算数と数学について学習者用のデジタル教科書が支給された学校があり、使用機会が増えた。</p> <p>→●デジタル教科書をタブレットに紐付けするまでに時間がかかり、4、5月の2ヶ月間はほとんど使用できていない学校もある。</p> <p><b>【昨年度課題】</b>校務でのICT活用による働き方改革。</p> <p>→○オンラインで受講できる研修が増え、移動時間をかけず勤務校で受講できるため、効率よく希望の研修を受けることができた。</p> <p>→○紙媒体の資料を作成せず、パソコンを使って会議を行うことで、印刷などの準備時間を短縮できた。</p>	B
教科指導	<p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による主体的・対話的で深い学びの実現による学力向上の推進</p> <p>◇「授業改善サイクル(PDCA)」を意識し、主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、ICTを効果的に活用す</p>	<p><b>【昨年度課題】</b>全国学力学習状況調査の中の国語「読むこと」と数学「データの分析」以外の項目の改善。</p> <p>→○中学数学では、数と式領域の正答率が全国や県の正答率を上回っている。</p> <p>→●町教育委員会としては、結果の数値を見るだけでは、指導との関連性がはっきりしない。各校の分析の提出を求め、総合</p>	B

	<p>る等、積極的に指導改善を進める。</p>	<p>的に分析していく必要がある。</p> <p><b>【昨年度課題】</b> <u>全国学力学習状況調査の小学校6年生の学力の落ち込みの改善。</u></p> <p>→○令和5年度と比較し、正答率が極めて低い児童が減少した。</p> <p>→●町の正答率の最頻値が、全国の平均正答率を下回っており、平均正答率を下げる要因となっている。</p> <p><b>【昨年度課題】</b> <u>新しい3つの評価規準に基づいた町の重点と方針の精査。</u></p> <p>→○第4次教育振興基本計画を策定するとともに、令和7年度の「大野町の教育」の見直しを行った。</p>	
<p>道徳教育</p>	<p>自己を見つめる力と他を思いやる心の育成</p> <p>◇道徳的価値を自分との関わりで考え、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に捉えられるよう、学習指導過程や指導方法の工夫などを行い、自己の生き方について考えを深める「特別の教科 道徳」の時間を充実する。</p>	<p><b>【昨年度課題】</b> <u>日々の体験を通して児童生徒が思いを表出する場や自己を見つめる場を意識した授業展開。</u></p> <p>→○各校の裁量で外部講師を招き、教師では伝えられない話の中から、素晴らしい生き方を感じることができた。</p> <p>→●その場で数人の生徒が感想や質問を伝えるだけでなく、全員がお礼の手紙を書くなど、一人一人が感じたことを振り返る機会を設ける必要がある。</p> <p><b>【昨年度課題】</b> ●<u>授業で理解した道徳的価値を道徳的実践につなげるための指導。</u></p> <p>→○他の教育活動との関連を図って年間指導計画を作成することで、授業で高めた道徳的実践意欲を学校生活の中で道徳的実践へとつなげることができた。</p> <p>→●道徳的実践意欲を高めようと意識するあまり、授業の終末が決意表明にならないよう、注意が必要である。</p>	<p>B</p>
<p>人権教育</p>	<p>価値観の多様性を理解し、偏見や差別の解消に立ち向かうための認識力・自己啓発力・行動力の育成</p> <p>◇一人一人のよさや違いを認め合い、児童生徒が互いに大切</p>	<p>○いじめについて認識した教職員が、組織として対応できた事案が多い。児童生徒が嫌な思いをしている仲間について、家族や教員に訴えたことで対応できた事案が多く見られた。</p> <p>●上述のような行動力のある児童生徒がい</p>	<p>B</p>

	にし合って活動できるよう学級経営の一層の充実を図る。	る反面、自分で解決に向けて行動できない児童生徒もいる。	
外国語教育	グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成 ◇児童生徒の英語力向上に向けて小中学校の学習到達目標を明確にするとともに、学年間、小中学校間の接続を考慮した連続性のある指導を行う。	【昨年度課題】 <u>小学校の学年に応じた英語学習の進め方や中学校の英語教育へのカリキュラム接続。</u> →○計3回の英語カリキュラム研修会を計画し、各校の英語担当教員が共通の認識で授業を進めるための研修を実施した。 ○タブレットとインターネットを使用して外国の子どもたちと直接会話をする機会を今年度も実施することができ、学習に対するモチベーションになっている。 ●ALTの明るさや元気さを見習い、担任がコミュニケーションを楽しむ姿勢を身につけることが課題である。	A
総合的な学習の時間	探究的な学習を通した、よりよく問題を解決する資質や能力の育成 ◇学習指導要領の趣旨や目標と学校の目標を踏まえ、目標及び内容を設定するとともに、課題意識が連続発展するよう全体計画及び指導計画を工夫改善する。	【昨年度課題】 <u>つけたい力に対する活動の精選。身につけさせる力と活用できる資源についての熟考。</u> →○学校間の情報共有を行い、ねらいや活動内容を他校と共有できる活動が増えつつある。 ●6年後の学校統合を見据えて、活動の時期や対象学年などを他校とすりあわせるなど、教頭会などで検討していく。	B
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成 ◇児童生徒が自発的・自治的な活動を展開し、一人一人が自分に自信をもち、よさや可能性を發揮して、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	【昨年度課題】 <u>日常生活や行事について児童生徒の意見を聞きながらの評価、検討。</u> →○中学では、服装などについて生徒会で話し合い、意見を集約してルール作りを行うことができた。きまりの理由を明確にして、互いに声を掛け合うなどの自治の姿につながりつつある。 ○中学では、さらに自分たちで活動を作り上げようとする姿が増え、自分たちの活動に自信をもてるようになってきている。	B
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育	【昨年度課題】 <u>新型コロナウイルス感染症で縮小したキャリア教育の充実</u>	C

	<p>成</p> <p>◇キャリアパスポートの活用により、自らの学習状況やキャリア形成の見通しと振り返りを積み重ね、一人一人のキャリア形成と自己実現を支援する。</p>	<p>→○中止していた職場体験学習を今後も実施しないとした学校でも、職業講話を通して多くの職業に触れる機会を提供し、将来に向けた知見を広げさせることができた。</p> <p><u>【昨年度課題】キャリアパスポートの記録を学習に取り入れたり、学んだことをまとめたりするような活用方法の検討。</u></p> <p>→●キャリアパスポートの記録を指導に取り入れるために、何を綴じていくのか、全校で共有する必要がある。</p>	
生徒指導	<p>共感的な人間関係の醸成による自己肯定感・自己有用感及び自己指導能力の育成</p> <p>◇自己存在感や所属感、達成感を味わい、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団づくりとともに、分かる喜びや学ぶ意義を実感できる授業づくりを進める。</p> <p>◇不登校や生徒指導上の諸問題（いじめ、暴力行為、薬物乱用、希死念慮、性非行、インターネットを使った誹謗中傷や違法行為等）については、全教職員が危機意識をもち、組織的に対応する。特に、指導後の見届けを確実に行う。又、ぎふいのちの教育（SOSの出し方教育等）についても計画的・継続的に指導・支援を行う。</p>	<p><u>【昨年度課題】ICT機器を使用したいじめや性加害や性被害を伴う事案等、多様化が進んだ事案への対応。</u></p> <p>→○性被害、性加害については、性教育やSOSの出し方教育について繰り返して校長会や教頭会を通して情報を発信し、事案が減少した。</p> <p><u>【昨年度課題】不登校や服装などに関わって家庭の理解を得るのが難しい場合の、保護者へのアプローチ方法の検討。</u></p> <p>→○服装などの学校のきまりについては、指導を継続して保護者の理解を求める姿勢は貫きつつ、児童生徒の学ぼうとする意欲を大切にしてきた。</p> <p>→○不登校で本人や保護者と連絡が取りづらいケースについては、子育て支援課や福祉課と情報を共有し、連携して指導・支援を行った。</p>	A
健康安全教育	<p>運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度の育成</p> <p>◇児童生徒の健康と命を守りきるために、学校・家庭・地域社会・関係諸機関及び学校相互の連携や情報交換を密に</p>	<p><u>【昨年度課題】●交通事故防止のための自転車の乗り方指導と、事故が起こった時の対応の仕方についての指導。</u></p> <p>→●どの学校でも注意喚起を行っているが、事故が発生しており、継続して指導が必要である。</p>	B

	し、地域や学校の実態に応じた実効性のある対策を徹底し、健康被害、虐待事案や事件事故及び自然災害等による被害の未然防止（命を守る訓練等）に万全を期す。	○令和5年度に見られたような性加害は見られなかった。 ●性的な嫌がらせなどが単発的に発生しており、性教育への取り組みが必要である。 ●給食に関連し、アレルギーに対する対応が必要な事案があった。給食センターの業務についての改善が行われたが、学校でもさらに注意が必要である。	
特別支援教育 教育支援・就学指導の充実 ※	一人一人の多様な教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力の育成 ◇特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援学校をはじめ、関係諸機関と連携を図り、一人一人の多様な教育的ニーズを正しく理解し、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。  ◇障がいの早期発見、早期療育の促進※ (※「大野町の教育」では幼児教育に含まれる)	【昨年度課題】特別支援教育について、人の配置や施設・環境について長期的な視点による対応の検討。 →○令和6年度より自閉情緒学級がなかった学校に新設、南小学校に難聴学級が新設された。全小学校への通級指導教室の本務者の配置が決定し、新設の施設や人的配置などのきめ細かな対応を行うための体制ができた。	A
ふるさと環境教育	ふるさとの自然・文化・歴史・産業等や環境保全への関心を高め、地域社会人として主体的に行動する態度の育成 ◇自然体験や社会体験等を通して、自分たちが住んでいる地域や環境保全について関心を高め、地域の魅力や課題を知る学習を進めるなど、探究的な学びができるよう指導する。	【昨年度課題】教員の働き方改革と児童生徒の地域での活動の推奨を考えた新たな学校のかかわり方の検討。 →○学校教育課と生涯学習課が連携し、ボランティア活動や地域クラブの運営など、教員が指導や支援をしなくても生徒が地域で活躍できる機会が増えてきている。	B

## 生涯学習

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
------	------	---------	----

<p>活力ある生涯学習の構築に向けた推進</p>	<p>◇地域づくり型の生涯学習の推進</p>	<p>【昨年度課題】生涯学習活性化のためのSNSなどの情報発信方法の拡大。 →○「生涯学習ハンドブック」を全戸配布することに加えて、ホームページへの掲載や各種チラシへSNS（X、インスタグラム）の二次元コード印刷等を実施し、情報発信の拡大を図ることができた。</p>	<p>B</p>
<p>社会教育組織の活性化</p>	<p>◇世代間交流事業の支援、及び地域ぐるみの青少年健全育成の推進</p>	<p>○特色ある取組みとして、7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」中、「インターネット利用におけるこどもの性被害等の防止」について町メール配信・情報発信おおのによる啓発を行った。また、11月の「秋のこどもまんなか月間」中、「おおのフェスタ」にて、町内青少年育成関係団体と協働で啓発活動を行い、非行・被害防止推進を図ることができた。 ○青少年育成推進指導員・推進員・育成員合同研修会の開催により、活動目的や役割について理解することができた。また、事例発表等を通じて、各地区の青少年育成活動を共有することで、青少年育成活動のより一層の充実を図ることができた。</p>	<p>B</p>
<p>若年層の社会貢献活動や生涯学習活動への参加促進</p>	<p>◇活動拠点となる施設の位置付け、及びスタッフの充実 ◇若者を構成員とする団体に対する支援の強化及び自主的な活動の促進 ◇新しい地域文化の創造</p>	<p>○VYSによる、町の活性化を目的にした「三八市」、「FC岐阜ホームタウンデー」、「大野町芸術祭」、「ふれあいコンサート」「二十歳を祝う会」など総合町民センター及び町主催行事における司会・ホールスタッフ等、ボランティアとしての参加により、若年層の社会教育活動に寄与することができた。 ○「といる大野」や「さなぎの杜」主催の夏祭りやクリスマス会に参加協力し、地域住民との交流を図ることができた。 ●近年VYS会員数が減少している。 新規会員を増やすための対応や活動内容</p>	<p>B</p>

		の見直し等を検討する必要がある。	
活力ある地域文化の育成	<p>◇「若者文化」を積極的に応援することによるまちづくりの推進</p> <p>◇既存の団体等に対して運営面での自立を促すことによる主体性の向上</p> <p>◇新たな文化施策に係る提案の募集</p>	<p>○第39回国民文化祭及び第24回全国障害者芸術・文化祭の開催に伴い、大野町の魅力を発信し、地域文化・伝統文化に寄与する事を目的に「清流の国ぎふ」大野町文化祭2024事業として、総合町民センターにおいて、「大野町芸術祭」を開催し、こども園・小中学校・各種文化団体等による作品展示や高等学校吹奏楽部・太鼓部による演奏会など、誰もが文化芸術に親しめる祭典を実施した。</p> <p>【参考】イベント参加者 来場者数 合計 3,094人 ※プレ展示除く。</p> <p>【多目的ホール】 11月3日 2,036人 11月4日 493人</p> <p>【ふれあいホール】 11月3日 296人 11月4日 269人</p> <p>ボランティア参加者数 大野・揖東中学生 14名 VYS 7名</p>	A
新たな学習機会の提供	<p>◇多様なニーズに対応する「町民カレッジ」の拡充</p> <p>◇夕刻や土曜・日曜に開講する講座の設定</p>	<p>【昨年度課題】受講者のニーズと今後進めるべき方向性を的確に把握した情報発信。</p> <p>→○総合町民センター利用者アンケート等の実施により、クラブ・サークル利用者、生涯学習講座受講者のニーズ把握に努めた。令和7年度は、昨年度の受講者に好評だった教室を、初心者でも理解できる内容に拡充し、実施予定。</p>	C
社会教育施設利用の適正化	<p>◇効率的な社会教育施設の維持管理</p> <p>◇新たなニーズに対応できるような社会教育施設の役割、性格の見直し</p>	<p>○町合併70周年及び総合町民センター開館30周年に併せて、総合町民センター施設改修を実施した。11月の70周年記念式典及び町文化祭・芸術祭等の記念事業が全ての改修計画の実施後に執行で</p>	A

		<p>きるよう、限られた工期内で工程管理を適切に実施し、利用者の利便性及び快適性の確保に努めた。</p> <p><b>【改修内容】</b></p> <p>①トイレ改修工事 1階・2階・楽屋・屋外トイレの洋式化（ふれあいホール一般トイレを除く。）</p> <p>②照明LED化改修工事 図書館棟、多目的ホール棟、大ホール棟の照明LED化（大ホール棟舞台照明等を除く。）</p> <p>③ふれあいホール楽屋・楽屋廊下塗装改修工事</p> <p>④ふれあいホール音響設備修繕</p> <p>○少子高齢化や人口減少、空き家の増加といった地域課題が多様化する中、これらの課題の解決と地域の活性化のため、社会教育施設である各地区公民館を地方自治法に基づく公の施設である、ふれあいセンター（コミュニティセンター）へ令和7年4月1日から移行するため、令和6年度に移行準備を1年間で実施した。</p> <p>① 制度設計（公民館長会4回開催、町長・副町長協議4回）</p> <p>② 3機関合同先進地視察（7/18）、住民説明会（9/17～26の間で6日間）</p> <p>③ 全体で26（条例4、規則16、要綱3、他3）の関連例規整備（12月に公布）</p> <p>④ ふれあいセンター移行に伴う変更点（名称の変更、開館日・開館時間の変更）の住民への周知・広報等</p> <p>⑤ 第1公民館の財産処分、中央公民館の廃止に係る諸手続き</p>	
国際化への対応	◇児童生徒が外国文化に触れる機会の提供	<p>○中学生の海外派遣については、為替や社会情勢の変化により予算が増大してきたが、継続するために検討を重ねることができた。</p> <p>○海外派遣事業の継続を検討する中で、英</p>	B

		<p>語を話す機会を意図的に設けるという方向性を確認することができた。</p> <p>●海外からの研修の受入については、相手先の都合で実現できなかった。</p>	
--	--	--	--

## 生涯スポーツ

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
スポーツ・レジャー施設の整備	◇多種競技可能な総合体育館の整備の検討	●最小コストで最大の効果を得る状態で保有、維持、活用するため、ファシリティマネジメントの手法を活かした管理・運用を検討していく必要がある。	C
スポーツ活動の振興	◇多様な住民のスポーツ活動が実現されるようなフォローアップの実施	<p>○スポーツ推進委員と体育委員が連携し地区公民館単位で軽スポーツイベント等を開催しており、地域の特性に合わせながらの活動ができている。</p> <p>○大野中学校、揖東中学校の休日部活動の地域移行化を令和6年8月より本格的に開始。地域より45名の指導者に協力いただき、14クラブ143名が活動を開始。生徒に向けて行った地域移行後のアンケート調査でも、「自分の好きなことややりたかった活動が継続してできている」、「技術や技能の向上をすることができる」など、地域移行については概ね好意的に捉えてもらえており、特に「他校の生徒と交流できる」という言葉は、地域移行への満足度を表している。</p> <p>●生徒数614名に対してのクラブ加入率が低く、各中学校でクラブ活動に対する理解が十分に浸透していない状況がみられる。今後は学校をはじめ、生涯学習課、地域クラブの指導者等関係者がより一層理解を深め、連携と協力を図ることで、子どもがスポーツに触れる機会を増やしていきたい。</p>	B
スポーツ施設の維持管理と利用促進	<p>◇施設利用手続きの適正化と充実</p> <p>◇利用者への情報提供及び効</p>	○運動場等開放事業運営委員会により利用調整を図るとともに、総合町民センター窓口とも連携しながら町内体育施設の利	A

	率的な体育施設の維持・管理	<p>用を管理することにより、施設利用の適正化を図ることができた。</p> <p>○施設の老朽化が顕著であるが、雨漏りの改修、不備箇所の修繕など、施設の維持管理・長寿命化を行った。</p> <p><b>【改修内容】</b></p> <p>① 大野町民体育館屋根防水工事</p> <p>② 大野町運動公園屋外テント修繕工事</p> <p>○利用者が来庁することなく施設予約が可能な公共施設予約システムを導入し、利用者の利便性向上、町DX推進に努めた。また、システム取扱職員を集め、情報交換会を実施。利用者の声を反映したシステム改良を実施した。</p>	
--	---------------	--	--

## 地域文化

点検項目	重点目標	成果○と課題●	評価
文化財の保存・活用	<p>◇文化財の確実な管理、保全</p> <p>◇文化財の活用に取り組む人材の発掘と組織の育成</p> <p>◇歴史文化基本構想の策定にむけての取り組み</p>	<p>○上磯古墳群（亀山、南山古墳）及び史跡野古墳群（乾屋敷古墳）の内容確認発掘調査を行い、古墳の保存活用計画が着実に進められた。調査により亀山古墳の墳丘長が100mを超えるものと判明し、また町内では初めてとなる陸橋を検出した。</p> <p>○地元や関係団体の協力を得て、旧北岡田家住宅を37日公開し、836人が来場した。また、国民文化祭イベントとして「大正昭和体験ツアー」の開催や、美濃大野観光ガイド隊などへ会場提供し、67人を受け入れる等、文化財をより多くの方々に見て触れていただくことができた。</p>	A
文化財の調査、再評価	<p>◇開発に係る埋蔵文化財の発掘調査の実施と成果の公表</p> <p>◇町内に所在する有形無形の文化財の調査</p> <p>◇長期的展望に基づく旧北岡田家住宅や野古墳群の保存活用施策の具体化</p> <p>◇文化的景観などの新たな概念</p>	<p>○埋蔵文化財の試掘確認調査等を実施し、土地開発事業者との調整を行った。</p> <p>○学識者による調査（来振寺の仏画など）など、旧条例による指定文化財の調査と再評価により、新条例に基づく指定・登録・解除等を行い、町文化財の明確な保存が進められた。</p> <p>○古墳保存活用検討委員会により、史跡野</p>	A

	も視野にいれた文化財の価値向上	古墳群保存活用計画の策定に向け、協議が進められた。	
教育・普及・啓発の充実	<p>◇埋蔵文化財センターを拠点としたふるさと学習や観光振興事業の実施協力</p> <p>◇文化財の周知、調査成果の公表、その他郷土の歴史的、文化的遺産に対する理解のための取組</p> <p>◇郷土の先人に関する普及、顕彰への取組</p>	<p>○文化財保護協会創立50周年記念として、講演会に134人、郷土の先人展に1,228人の来場者を迎え、文化財の保護活用に寄与できた。</p> <p>○埋蔵文化財センター（大野あけぼのミュージアム）では、1回の企画展開催などを行い、年度内に1,124名が来館し、町の文化財啓発と観光資源としての活用ができた。</p> <p>学校＝小学校2校95人 企画展開催期間中349人</p> <p>○「嚶鳴フォーラムin高鍋」に関係団体の参加協力が得られ、文化財団体間の交流が図られた。</p>	A
伝統文化や行事の継承	◇伝統文化親子教室など、伝統芸能や民俗行事、生活文化などが地域で大切にされ、次代に受け継がれていくような広報や継承の取組の支援	<p>○1団体が文化庁 伝統文化親子教室の採択を受け、教室を開催することにより、伝統文化の体験や継承に取り組むことができた。</p> <p>○町重要無形民俗文化財の祭礼などの古い映像をデジタル化し、郷土の先人展会場において上映したことにより、町の貴重な財産を発信できた。</p>	A

## 評価委員の所見

<p>教育委員会の活動状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合教育会議で教育振興基本計画の検討を行い5ヶ年計画の1年目として、教育の見直しを諮れたことは良かった。</li> <li>○今後学校規模が縮小する中で行政、住民とのしっかりした意思疎通が大切であるとする。その点、外部委員会を通して議論を深め、令和13年度の学校統合に向けて小学校1校中学校1校の2校について、住民と十分な意思疎通を図ることに努めていってほしい。</li> <li>○令和6年度大野町教育『地域を愛し、みんなで学び合う、地域社会人の育成』を目指し、教育施策が進捗している点は評価できる。</li> <li>○『広報おおの』に毎回教育委員会の活動状況を掲載し、地域住民に広く知らせていること、各校のホームページの活用・充実が図られる点は評価できる。</li> <li>●「情報発信おおの」や大野町ホームページで、さらに住民の理解が深まる内容の掲載を期待したい。</li> <li>○学校運営協議会を設置し、学校運営に、学校と地域のコンセンサスを深め、さらに地域に開かれたものになりつつあることは、評価したい。</li> <li>○困ったことがあるときに、自分から行動を起こし解決できる力をつけられる教育を校長会等で話してあるので、学校運営に生かされることを期待したい。</li> <li>○いじめ・不登校、その他の課題について、教育委員会会議での検討内容を校長会や教頭会などの場で学校に伝え、改善を図っている点が評価できる。(委員会が出された意見をそのまま伝えているわけではなく、検討した内容を伝えているのではないと思われる。)</li> <li>○前年度の課題に対して、具体的な取り組みが見られる。</li> <li>○町小中学校のあり方について、計画的に検討を進めて提言をまとめている。検討内容について様々な方法で発信し、幅広い世代の意見を聞こうとしている点が評価できる。</li> <li>○教育振興基本計画について検討が行われ、社会情勢、町の生活環境の変化に応じ、常に今後の見通しをもつことが行われている点については評価できる。またホームページで教育振興基本計画が公表されている点も評価できる。</li> <li>●大野町の教育の方針を示すものとしてはリーフレット形式で作成される「大野町の教育」があるが、それと教育振興基本計画との整合性が図られることが期待される。ある程度の整合性は読み取ることはできるが、町民目線で見ても整合性が図られていることが理解できる程度にまで整理することが必要だと感じる。さらに各校の学校経営方針や各公民館の運営目標に「自立力」「創造力」「共生力」にかかわる内容が示されるなど、教育振興基本計画がより機能的に働くような手立てをもちたい。</li> <li>●訪問を通し、各校の「努力」の程度を把握するに留まらず、取り組みをより客観的に評価できるようにしたい。学習指導要領が改定されて数年が経過し</li> </ul>
-------------------	---

	<p>ているが、そこで掲げられている「主体的・対話的で深い学び」に象徴されるような取り組みはどの程度進んでいるのかを客観的に評価する存在が学校には必要であると感じる。</p> <p>○学校規模適正化について、町民、特に若年層に対する意見聴取の手立てをもち、積極的に進めていることは高く評価できる。動画の内容も町民が知りたい点についてわかりやすく解説されており、理解しやすいものとなっている。</p> <p>●町長、教育長自らが解説するというのも、現代の風潮に応じた取り組みでよいと思うが、「職員の頼りなさを象徴するもの」ととらえる見方もあるらしいので要検討と感じる。</p>
<p>家庭教育</p>	<p>○地区公民館や、小・中学校が学校運営協議会と連動させて、各種の「子ども教室」や「親子教室」等を工夫して実施し、地域資源を活用した子どもの居場所づくりの場が広がっていることは評価できる。</p> <p>○今後も、子どもの居場所作りに、図書館等で読み聞かせサークル「あおぞら」や、「おはなし舎和母」等の活用をしていることは素晴らしい。</p> <p>○放課後クラブを外部委託に切り替えることが決定して、良い環境整備が整ったことは良かった。</p> <p>○土日祝日や夏休みの子供の居場所作りや・子ども食堂・学習支援の機会を利用した活動に努めたことは評価できる。(さなぎの杜やフードバンク活動ボランティア)</p> <p>●各学校で、資源回収等が行われている事を通してコミュニケーション等も図られ、ボランティア活動の高まりにも期待したい。</p> <p>○前年度の課題に対して、夏休みの親子クッキングや研修会の開催時間変更など、具体的な取り組みが見られる。今後も、満足度を調査するなどして、家庭教育の向上に向けた効果的な積み上げを期待する。</p> <p>○放課後対策で前年度課題であった指導員の資質向上について、研修会の内容を工夫して実施している点が評価できる。</p> <p>○要保護児童等への支援についても、前年度の課題改善に向けて努力されている。急な虐待事案にも対応できるような先を見越した職員の配置や組織的な体制整備など、評価に値するものとなっている。</p> <p>○PTAと連携を図ることで、より効果的に家庭教育にかかわることができると考えられる。またPTAの活動も活性化することも期待できるため評価できる取り組みである。</p> <p>●現代の家庭教育機能を向上させるためには何が必要であるのかを考えたい。「親子の触れ合い」をテーマに掲げるケースをよく見るが、本来、家庭教育とは基本的な生活習慣・生活能力、倫理観、自制心や自立心など子どもが社会化する上での基礎的な能力を最初に培うことを目標にすべきものである。そういった取り組みが成り立ちにくいのは、現代においては、子どもの特性</p>

	<p>も様々であり、親の価値観も多様であることに一因があると考えられる。時代に応じた取り組み内容、方法を考えたい。</p> <p>○放課後クラブの運営の外部委託化により運営が効率化され、指導員の質の向上も期待できることから高く評価できる。</p> <p>●一方、放課後クラブを放課後教室化する中で地域とのかかわりを高めたり、公民館の活動とタイアップするなどの取り組みが期待できる。外部委託化することで、そういった取り組みが制限されないようにしたい。また、特に小学校が1校に統合された場合、地域とのかかわりが希薄になる恐れがある。放課後教室を地域ごとに実施することで、地域とのかかわりを維持し、地域の教育力を高めることにもつながると考えられる。学校の適正化と並行して見通しをもつことが望まれる。</p>
<p>幼児教育</p>	<p>○支援を必要とする園児が増加する現状に対して、具体的な取り組みを話し合い、園での様子を伝え、小学校へのスムーズな対応を行い、情報を共有している点は評価できる。</p> <p>○子育て支援施設「ぱすてる」で情報交流の場や子育て等に関する相談・援助等が行われていることは評価できる。</p> <p>●今後さらに町内在住の利用者の増加を目指して、施設の取組の充実と住民へのPRの徹底を期待したい。</p> <p>○おおのファミリー・サポートセンターを開設して、育児相互援助活動の推進を行い、多くの活動が行われることを期待したい。</p> <p>○「なないろ」の更なる活用のため、意見交換や情報交流が行われ、誕生日会や親子教室等の活動を行っていることは評価できる。</p> <p>●専門スタッフの充実について、今後も専門性や資質の向上を工夫して努力されることを期待する。</p> <p>○前年度課題であった「保育の資質向上」について、個の研修内容が他の職員に広がるような場や方法に工夫がみられる。</p> <p>○研修を受け実践すると、新たな課題も生まれる。研修の積み上げや現場での実践交流により、生きた指導法が多くの保育士に広がり、資質の向上につながる。月に一度行っているクラス会議が、楽しく発見のあるものになるように期待する。</p> <p>○前年度課題であった「小学校へのスムーズな接続に向けた更なる交流の機会」について、時期や内容を工夫しながら改善が図られている。</p> <p>●こども園と小学校との合同研修会は、園児が安心して小学校に入学するために大切な施策であると考え。インクルーシブ教育のように、合同で研修すべき内容は何かを吟味し、今後も実施されたい。</p> <p>○前年度の子育て援助活動の課題についても、お試し体験補助事業という施策により改善が図られている。</p> <p>○園児に対するきめ細やかな指導がうかがえ高く評価できる。</p> <p>●幼・こでの園児に対するかかわり方と小学校での児童に対するかかわり方の</p>

	<p>差が埋まらない限り、小1プロブレムは解消されない。具体的には支援員の配置など人的な補償が必要不可欠である。統合した場合、一クラスの児童数が増加すると考えられる、その場合も、1年生のうちは、幼・こと同じレベルでの配置を期待したい。</p> <p>●教育委員会評価委員に幼児教育の知見をもった人材を入れるべきである。</p>
<p>学校教育</p>	<p>○教職員の働き方改革が進んでいることは評価できる。ただ、地域活動とのあり方について、どうあるべきか考えていくことも大事である。</p> <p>○メンタルヘルスチェックシート等の活用や教職員との面談等による教職員の心の健康保持や不祥事根絶等の労務管理が徹底されている点は評価できる。</p> <p>●今後も管理職のリーダーシップによる教育活動の推進がなされることを期待する。</p> <p>○SNSでのトラブルやいじめについて、早期発見して、緊張感を持って情報共有出来たことは評価できる。今後も早期発見、早期対応が重要と考える。</p> <p>●今後も情報モラル研修会でトラブルを未然に防ぐ学習で不適切な活用について意識を高める事が大切である。</p> <p>○中学校の部活動の地域への完全移行が、計画的に進められて良かった。</p> <p>○道徳の授業と道徳実践の場を意図的に結び付ける指導に向け、年間指導計画を作成して授業改善がなされている点は評価できる。今後も自己を見つめ直し、日々の行動に道徳的価値を見出していける事を期待したい。</p> <p>●タブレットの貸与によるトラブルに今まで以上に注意しながら、効果的活用を期待する。</p> <p>○タブレットを活用して外国の子ども達と直接会話する事は学習のモチベーションになり良きことである。</p> <p>●不登校や服装の問題事案に、しっかり家庭、保護者とのコミュニケーションが重要あり、その都度早い対応が大切であると考え。性加害に関わる事案の発生等の防止に対処する対策をしっかり行ってもらいたい。</p> <p>●自転車事故が起きないように、交通安全教育をしっかり行ってもらいたい。(休日のヘルメット着用の徹底の推進)</p> <p>○自閉情緒学級の新設や難聴学級の新設、通級指導教室が、すべての学校に開設された事は良かった。</p> <p>○特別支援教育の対象児童等が年々増えつづけており、発生問題に、幼・保・少・中のスムーズな連携で、適切な教育支援を進める事が出来たことは評価できる。</p> <p>○生徒会で話し合い、意見集約して、自分達のルール作りが自主的に行われたことは評価できる。</p> <p>○どの項目も、前年度の課題に対して取り組みがなされていて評価できる。</p> <p>○職員一人ひとりについて、チェックシートや日常の勤務の様子等により様々な観点から把握し、管理職への指導を通して面談を継続的に行っている。教育委員会として素早い把握、素早い指導に心がけている点が特に評価できる。</p>

- 教職員の生活スタイルに合わせた働き方と勤務時間や業務量の振り分けについては、規則や条例の周知・理解、町内だけでなく他の市町の好ましい実践を通じた研修など具体的な施策を期待する。
- 教職員の労働環境の改善が図られている点は、安心、安全な学校の基盤であると考えられることから高く評価できる。
- 伝統を引き継ぐという姿勢は必要だとは思いますが、校長が変わっても経営方針がほぼ同じということにやや不安を感じる。判断が難しいことは、教育委員会、校長会の意見によりかかるという風潮が感じられる事例を耳にすることがある。「どういう経営をしたいのか」という校長の意思が確固たるものであってこそ、この項目にかかわる評価、議論が成り立つと思う。
- より効率よく授業を行うためにICTを積極的に活用できるような取り組みが行われていることは評価できる。
- ICTの活用は喫緊の課題であるが、やはり道具の使い方に過ぎない。若手教員が多い中、本来の指導力向上のための研修、教師の授業ツールだけでなく児童生徒の学習ツールとしての活用を充実させ個別最適化の手立てとするための研修も充実されるよう教育委員会の働きかけを期待したい。
- 全国学力学習状況調査について、義務教育終了時に県、全国平均と同等の結果を出せていることは、大野町の教育への信頼感を高めるひとつのデータであると考えられ、それを維持するための取り組みに対しては評価ができる。
- 小学校の結果との違いの原因について仮説をもち、改善するための方途を画策している点も評価できる。中学校の結果を良しとせず、結果分析等の取り組みを続けてほしい。
- 「議論する道徳」は具現化されているのか、教育委員会としてそれを把握する手立てをもっていただきたい。
- ALT、インターネットを活用し、学習に対する児童、生徒のモチベーションを高めようとしている点、それが可能となるような人員配置、設備の充実を行っている点は評価できる。担任が外国語指導の指導力を高めることは望ましいことではあると思うが、今後、小学校でも教科担任制が進められていくことを考えれば、あえて担任にALT同等の指導力を期待する必要はないのではないかと考える。
- 地域とのかかわりを大切にしている大野町の総合的な学習の時間には、一つの価値があり、統合に際しても大切にしていっていただきたいと考える。ただし内容が知に偏りすぎず、問題解決のための方法や成果発表の方法や場が、児童の発想に応じて決定されてくような取り組みに発展していくよう学校に対して働きかけられることを期待する。
- 中学校における取組は、自治の精神、自らの行動への責任感を醸成するものであると考えられ、大変高く評価できる。小学校においても決して難しいことではないと考えられる。児童の総意による決定はすべて受け入れる立場

で、教師側から「●●はどうすればよいか」と計画的、意図的に問題提起するような取り組みがあってもよいのではないか。大野町の教育の3つの育みたい力に直結するものであるため、ぜひ小学校でも意識的に取り組んでいただけるよう教育委員会として働きかけていただきたい。

- キャリアパスポートの活用之际、何を綴じていくのか以前に、なぜ綴じていくのかを共通理解するべきであると考え。その上で文部科学省の指導資料を十分に活用して、教職員の負担なく、効果的に進めていただけるよう教育委員会から働きかけていただきたい。
- 日々起きる問題行動等に適切に対応されている先生方、ともに解決にあたらうとしていらっしゃる教育委員会の取り組みには頭の下がる思いであり高く評価したい。
- 子どもの問題行動の責任は保護者にもあるという意識を保護者がもつ、どんな理由があつたとしても行った問題行動には毅然と指導すべきである、また、そうすることが子どもをよりよく育てることになる等の保護者の意識を高めていくことも必要であると考え。そのためにスクールポリス、スクールロイヤーの導入があつてもよいのではないか。
- 「学ぶことが楽しければ学校での問題行動は起きない」という理念を忘れずに授業改善、指導力向上に力を注がれるよう学校への働きかけを継続していただきたい。
- 取りあつかう内容が年々増えていく現状の中、学校も何を行わなければならないのかと戸惑うことが多いのではないかと考える。地域の教育力に任せられる部分については地域に任せる、またそれが可能な地域を作っていく発想が必要だと考える。
- 特別支援学級、通級指導教室の増設、それにとまなう施設、設備の充実、人員の配置などに確実に取り組もうとされていることは高く評価される。通常学級に在籍している特性のある児童に対する対応の難しさは解決されているのだろうか。支援員の確保、配置は確実に継続していただきたい。授業が正常に行われる環境を確保するためにも、必要なことであると考え。
- 生涯学習、地域の活動と連携して進められたことは、今後もそういった活動が発展していくことが期待され高く評価できる。
- 役場の職員が、それが仕事であるとしてもどんな苦勞をして大野町の日常を支えているか、公民館に従事する方々、青少年育成委員の方々がどんな思いで活動していらっしゃるのかを知るだけでも、地域社会人の育成につながるのではないかと思う。

生涯学習	<p>○「生涯学習ハンドブック」を町内全戸に配布は、町民センターや公民館でのクラブサークルの地域活動を理解し、加入、参加の理解になるので評価したい。</p> <p>●「情報発信おおの」の加入の推進と内容の充実に期待する。</p> <p>●町民のニーズに応えるため、講座数を増加したり、講座の開設を夕方や土日に行い、受講しやすくしたりすることで、住民の学習機会の拡充となり、今後楽しく学べる講座の開設になるために期待する。住民の要望を聞き、町民のニーズに応える取組に期待したい。</p> <p>●若い世代が望む講座や町民カレッジ等を取り込むことで、受講者の若返りを図るとともに、講座内容や開催方法等の工夫を望む。</p> <p>●青少年健全育成の面からも各地区公民館や町の行事にボランティアとして中学生やVYSが多数参加して活動が進められていくことを願っている。今後ともボランティア活動が、地域貢献の意識高揚や地域との繋がりが図られることを望む。</p> <p>○中学生とVYSが、一緒に活動して、語り合う機会が設けられ、中学生がVYSの活動や精神を理解し、VYSに多数入会して、地域ボランティア活動を盛り上げていくことに期待したい。(R5年 VYS加入0人 募集時期、募集方法や中学校の協力について今後協議を望む。)</p> <p>○中学生のカナダ研修を実施出来たことは外国文化理解と国際交流の機会を提供する上で評価できる、他の生徒が外国文化の理解を深める上でも有効であると考えられる。</p> <p>●一般町民にも、外国文化に興味関心を抱かせるような講座の開設を望む。</p> <p>●各地区公民館がふれあいセンターとしての運営になり、地域拠点としてより使いやすく、開かれた場となることを期待する。</p> <p>○前年度の課題「生涯学習活性化のための情報発信方法の拡大」「新たな学習機会の提供のための情報発信」について、方策を検討し改善を図っている。</p> <p>○改修工事についても、様々な行事との兼ね合いを考慮し、計画的に実施されていることが評価できる。</p>
生涯スポーツ	<p>○運動場等開放事業運営委員会により利用調整をしながら、町内体育施設の利用を管理していくことで、施設用の適正化を図っている点は評価できる。</p> <p>○体育施設の改修を行い、少しでも長く活用出来る方向で進めていることは、評価したい。</p> <p>○スポーツ推進委員と体育委員とが連携・協力し、地区公民館の軽スポーツ活動等を今後さらに活性化していくためにも自分たちで地域のスポーツ活動を推進していくのだという自覚を持って活動していかれることに期待する。</p> <p>○ノルディックウォーキングやモルックが広く町民に普及・推進されていることは喜ばしい。</p> <p>○中学生の部活動加入者の割合が低いので、生徒に部活動の良さを理解してもらい、加入推進していくことを望む。</p> <p>○中学校休日部活の地域移行について、大きな問題もなくすすめることが出来た点</p>

	<p>について評価できる。今後、生徒のクラブ加入率が上がるような、教育委員会としての動きを期待する。</p> <p>●指導者が生涯スポーツの目的をしっかりと理解した上で、適切な目標を立てて指導にあたる事が出来るように研修を期待する。また、(他地区において)健康・安全に対する配慮、指導者の体罰、ハラスメント、金銭に関する問題等が課題となっている。計画的に指導者の研修を行い、今後も生徒が安心して活動できるように期待する。</p>
地域文化	<p>○大野町埋蔵文化財センター(大野あけぼのミュージアム)の企画展開催などで、多くの来場者があったことは喜ばしい。</p> <p>○地域文化財の発掘調査や保存整備に努めている点、特に、上磯古墳(亀山 南山古墳)や史跡野古墳(乾屋敷古墳)の内容確認発掘調査実施は大変評価できる。</p> <p>●今後も文化財の保存活用計画に基づいて、調査や把握・保存整備が進められることを願っている。その状況を地域住民に広く知らせたり、美濃大野発見ガイド隊の活動協力で、観光資源として活用したりすることに、力を入れていくことを期待したい。</p> <p>○関係団体等と連携して、旧北岡田家住宅や町文化財・天然記念物を生涯学習の講座として取り入れている点は、今後も継続していかれることを期待する。</p> <p>○埋蔵文化財については、今後も調査をすればするほど発見される可能性があるので一つ一つ丁寧に対応をして、今後も継続してほしい。</p> <p>●伝統文化財を親子教室やふるさと教育等において教材の一つとして活用したり、一般住民にも広く知らせたりしていかれることを切望する。</p> <p>●今後も郷土の先人を生かした地域づくりを継続していかれることを期待する。</p> <p>○旧北岡田家住宅公開が、文化財保護協会や地元ボランティア団体「宝林荘プロジェクト」の協力により、37日公開できたことは良かった。</p> <p>○文化財の保存・活用そして調査について、学識者による調査を行ったり、参加人数を把握したりしながら着実に事業を推進している点が評価できる。また、地元団体との協力も継続できており、文化財を積極的に活用していこうとする姿勢が広がっていることを感じる。</p> <p>○4項目とも、参加者・来場者を調べるなどして、PDCAのサイクルを機能させ、着実に事業を推進しており評価できる。</p>

## 総括

<p>全ての町民が、学び成長し続ける『地域を愛し、みんなで学び合う、地域社会人の育成』を目指し、家庭教育、幼児教育、学校教育、生涯学習、生涯スポーツ等、各年齢層での生涯教育が一体化して進めている点が評価できる。</p> <p>特に、次のような点が評価できる。</p> <p>○家庭教育では、学校運営協議会等と連携して、地域教材や人材を活用して、子供教室等を工夫して</p>
--

開催し、子どもの学習機会を設けている事が評価できる。ただマンネリ化しないよう、活発な協議、検討を望む。

○幼児教育では、子育て支援施設を核として、子育ての親子に情報交流の場を提供したり、子育て等に関する相談や援助等を実施したりできたことは評価できる。また、幼保小が連携し、支援を必要とする児童等の共通研修を実施し、療養の知識を高めている点や研修を実施し、支援を必要とする児童等の早期発見、早期療育に努めていることは評価できる。

○学校教育では、多くの活動が問題を丁寧に議論して解決していることに敬意を表す。学校生活の安定が教育活動の基本であることから、生徒指導上の問題点の早期発見や早期対応、再発防止に向けて、全職員が共通理解をし、組織的に取り組んで、各校が課題を明確にし、全職員で共通理解、実践が行われていることは評価したい。

○生涯学習では、公民館でのボランティア活動を中心に、若年層の社会貢献活動や生涯学習活動を図っている点は評価できる。

○生涯スポーツでは、地域スポーツ振興にノルディックウォーキングやモルックを各公民館のスポーツ推進委員と共に普及・推進されている点は評価できる。

○地域文化では、埋蔵文化財の発掘調査や保存整備に努めている点、また、地域文化財を観光資源として、利用計画を地域とともに施策している点、地域文化の継承を見据えて子ども達に伝統文化に触れ合う機会を拡充している点等が評価できる。

○埋蔵文化センター「大野あけぼのミュージアム」が常設展示施設として大いなる活用に期待したい。

○SNS等を活用して情報発信を地域住民だけでなく、多くの方に分かりやすく有益な発信される事を望む。

○前年度の課題をそのままにせず、改善しようと多くの項目で具体的な方策を立てて取り組んだことがうかがえる。PDCAのサイクルが機能している。

○幼児教育や学校教育の内容において、教育委員会の指導や働きかけが記されるようになった。前年度の評価委員会の意見を取り入れていただき感謝する。(例：校長会などで周知した。)

○コロナ禍により、指導者の研修だけでなく小中学校をはじめとする現場での幾つかの活動や行事を控えてきた。コロナ禍で学び生かし続けていくべきこと、コロナ禍以前に戻すべきことを精査し、より効率的に成果をあげようと努力されている点も素晴らしい。

○可能な内容について数値で評価しており、説得力がある。

※改善した内容を具体的に記しているが、1例だけでは十分とは言えない。(改善できたのは一つだけとも取れる。)事例を複数記す努力を期待する。(A等→AやB等)

【よい例】誕生会や親子教室の他、新たに夏休み親子クッキングや「液体ミルク」を活用した防災セミナーを・・・。(子育て支援事業の充実より)

※報告書の中で、一文が長く理解しづらい箇所があった。誰もが理解できる文書作成に配慮することで、次への改善が明確になると考える。

○公的機関と地元の各種団体との連携がよい方向に機能していると感じる。さらに、長期的なサイクルも含めて、町民が育つ仕組みの構築を期待したい。

○今後もPDCAのサイクルで、大野町の教育が着実に改善していくことを期待する。

